

ビワ生育情報

千葉県
平成30年6月号

平成30年5月の気象

平成30年5月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は、第2半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は18.7℃で、平年より1.0℃、前年より0.2℃高かった。

降水量は、第4半旬で降雨がなく、第1、第3及び第6半旬で平年を下回ったが、第2半旬が極めて多かった。月合計は230mmで、平年の132%、前年の200%であった。

日照時間は、第2及び第6半旬を除く4半旬で平年を上回った。月合計は203時間で、平年の115%、前年の89%であった。

表1 平成30年5月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	19.0	16.6	16.1	21	22	0	42	30	49
2	14.9	17.3	18.4	110	26	13	18	28	31
3	18.7	17.5	18.0	35	38	68	49	27	24
4	19.9	17.8	17.7	0	25	0	41	28	36
5	18.8	18.4	20.7	36	32	0	37	29	44
6	20.6	18.8	20.0	28	32	34	16	35	46
平均/計	18.7	17.7	18.5	230	174	115	203	177	229

7月の作業（果実の発育は次ページ）

7月に入ると梅雨も明け、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んであるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けて草刈り、敷き草、カミキリムシの防除がある。

草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておく、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するカミキリムシはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また、食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので、注意を要する。成虫は産卵のために、7～8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。防除に際しては千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従う。

果実の発育

6月1日現在のビワの果径を表2に示した。横径は、「楠」が4.43cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ4.99cm、4.75cmであった。本年の横径は、6月1日時点では「楠」及び「大房」は平年並みで、「田中」は平年より大きかった。縦径は、「楠」が4.70cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ5.39cm、5.19cmであった。本年の縦径は、6月1日時点では「楠」は平年より小さく、「大房」及び「田中」は平年より大きかった。

果形指数は、「楠」が0.94、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ0.93、0.91であった。「楠」及び「田中」は平年並み、「大房」は平年より縦長傾向であった。

着色程度は、「楠」が3.8、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.8、2.8で、着色の進みは3品種共に平年より早く、「楠」及び「大房」はほぼ完全着色であった。

暖地園芸研究所では早生品種の収穫は5月中旬から始まり、「楠」は5月21日、「大房」は5月28日、「田中」は6月1日に始まった。本年は開花が早く、3月から5月までの平均気温は平年より著しく高く推移したため、収穫期は3品種共に平年より早い。また、「大房」は肥大途中で着色が始まり、6月1日時点で収穫した果実は小玉傾向である。

本年は平年に比べ、着花房率が低く、寒害を被った幼果が多かったため、着果量は平年より少ない。果実は小玉傾向である。病害虫では、クワゴマダラヒトリの発生は平年よりやや少なく、果実の被害程度も平年よりやや少なく、果樹カメムシ類の被害は現時点ではほとんどみられない。がんしゅ病の発生はややみられる。以上のことから、最終的な収量は平年より少ないと予想される。

果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市ほか県南地域で多発生年と同様の傾向を示すため、今後の発生予察情報を参考に参考にする。カメムシの発生が多くみられ、収穫が終了していない園では薬剤防除を検討する。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

表2 果実の発育（6月1日の果径及び着色程度）

品 種	調 査 地	横径(cm)			縦径(cm)			果形指数			着色程度		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.43	4.42	4.20	4.70	4.76	4.74	0.94	0.93	0.89	3.8	3.0	3.0
大 房	青 木	4.80	4.97	4.83	5.09	5.12	5.17	0.94	0.97	0.94	3.8	3.0	3.1
	南 無 谷	5.08	5.01	5.08	5.60	5.18	5.43	0.91	0.97	0.93	3.8	3.1	3.3
	暖地園研	5.10	5.05	4.87	5.48	5.12	5.45	0.93	0.97	0.89	3.7	2.9	3.3
	平 均	4.99	4.99	4.93	5.39	5.14	5.35	0.93	0.97	0.92	3.8	3.0	3.2
田 中	青 木	4.61	4.45	4.50	5.09	4.94	5.14	0.90	0.90	0.88	2.7	1.8	1.7
	南 無 谷	4.83	4.50	4.71	5.24	4.93	5.45	0.92	0.89	0.86	2.8	1.8	2.1
	暖地園研	4.83	4.52	4.57	5.25	4.97	5.20	0.92	0.91	0.88	2.9	1.8	2.1
	平 均	4.75	4.46	4.59	5.19	4.95	5.26	0.91	0.90	0.87	2.8	1.8	2.0

注) 果形指数：横径／縦径

着色程度：1(未着色)、2(黄白色)、3(淡橙黄色)、4(橙黄色)、5(濃橙黄色)

平年：横径、縦径、果形指数は昭和63年～平成29年の30年間の平均、着色程度は平成11年～平成29年の19年間の平均。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>